

異文化を畏敬する活動の現場から

アフガニスタンで人道支援に献身した中村哲医師の 信念と発信（に触発・啓発された人類学者として）



講師：清水展氏
（京都大学名誉教授・文化人類学）

日時：2025年1月8日（水）13:00-14:30

場所：津田塾大学小平キャンパス 本館H301教室

「国際協力論(4)」の講義中に実施します。受講生以外の方の参加も歓迎します。学外の方は、当日に守衛所にて受付後、教室でお待ちください。

中村哲医師は、アフガニスタンで長年、医療活動と灌漑事業に従事されましたが、2019年12月、現地で移動中に銃撃され、亡くなりました。フィリピンで研究をおこなう文化人類学者であり、NGOワーカーでもある清水展先生は、著作のなかで、「中村医師の活動と著作と折々の発言に接して、中村医師に嫉妬するとともに敬服脱帽し、しかしそれ以上に畏怖してきた（『自前の思想』P.35）」と記しておられます。今回の講演会では、フィールドに向き合い続ける清水先生に、現場に向き合い続けた中村医師について語っていただきます。



参考

清水展（2020）「字義通りのフィールド=ワーカー：中村 哲」

清水展・飯嶋秀治編 『自前の思想—時代と社会に应答するフィールドワーク』
21-62頁、京都大学学術出版会。